ありあけ

佐賀大学農学部
同窓会報
No.20

発行日　2017年７月１日　　発行　佐賀大学農学部同窓会
編　集　会報編集委員会　　住所　佐賀市本庄町１ 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253　FAX 0952-25-5700
E-mail dousoukai@sadai.jp
ホームページ　http://sadai.jp/alumni/nougakudousoukai/

巻頭言

地域貢献のすすめ

柳川市立城内公民館長　大　村　　直
（Ｓ40年卒・機械）

在学中は福岡市民でしたが、卒業と同時に農業機械メーカーに就職し、柳川市民となりました。工場勤務時代は品質管理、資材、開発、製造などいろいろな職場を経たうえ社外講習会にも参加させてもらった結果、数種の国家資格も取得しました。

工場では当時増産とともに合理化運動が盛んになり始めた頃で、工場レイアウト、工程管理、組み立て指導書などを作業者にもわかりやすいイラスト入りで作成することが多くありました。

さて、在学中はサッカー部に所属していましたが、就職と同時に健康管理のためジョギングをはじめ、当時のマラソンブームにのり昭和53年から市内のマラソンクラブに所属、マラソン大会、駅伝競走などに選手として参加していました。そのため大会終了後は仲間での飲み会も多く、家族にはだいぶ迷惑をかけました。昭和53年に関係者の奨めにより、日本陸連公認審判員の資格を取得、久留米市陸協はじめ競技会で公認審判員として活動しています。過去には福岡国際マラソン、ユニバーシアード福岡大会、アジア選手権などいろいろな競技役員を経験し、現在は場内アナウンサーの部署で、観客へのサービスを行っています。この様にスポーツを通じての人間関係が、私の人生を大きく変えた結果となったような気がします。

また、地域では平成21年から校区公民館長を委嘱され、文化、スポーツ、福祉を中心としたまちづくりの活動支援をしているところです。

これらは、学生時代農学部で習った知識などを活用しているわけでなく、社会人になってからの経験や人とのつながりが基本となっているのではないかと思います。

今住んでいるまわりの住民を見まわすと、ボランティア活動を進んでやる人と全く関心すら示さない人と二極化しています。

ものごとに完璧主義の人、過去のプライドに執着する人は、やる前から考え込み、心配し、やめようという結果になるものです。ところが医学的にうつ病など心の病気も、このタイプの人に多いことが実証されています。

現役学生の皆様も卒業と同時に社会人として活躍される方、あるいは自営業の方も含め、是非ボランティア活動にチャレンジされることをお勧めします。

さて私は平成21年、前任の故松葉万蔵（Ｓ39年卒・文理）会長の後任として、筑後支部長に推されました。

筑後支部総会は、おおむね小郡から大牟田までの卒業生を対象に２年に１度、柳川市内で実施しています。

諸先輩がよく言われていましたが、「福岡県の支部といえども佐賀市を除けば、佐賀大学に最も近い同窓会」ということを今でも誇りにしています。

ところが参加する人は毎回ほぼ決まっています。どうしたら新規の同窓生に参加していただけるか、そのためには若い人達にも参加していただける雰囲気づくりをしたいものです。

このことは紙面を借り、皆様方からのアイデアをお聞かせ願えたらと思っています。卒業生の皆様は是非同窓会に入会してください！私の経験では終身会員をお勧めします。

去る平成27年６月15日ＮＨＫテレビのニュースウォッチをたまたま見ていましたが、国立大学も独立行政法人となり実績を残さないといけない。「地域貢献」「特定分野」「世界トップの水準」などがその条件で、このような大学には交付金がおりるそうです。

これから先も微力ながら、大学の外側からお手伝いをさせていただくつもりですので、皆様方の厳しいご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

第32回（平成29年度）同窓会総会を開催

講演会・アトラクション・懇親会も盛会

通常総会は平成29年５月20日（土）に農学部大講義室で開催し、①平成28年度の事業実績・決算、③平成29年度の事業計画・予算、③役員改選について審議いただきました。

出席者については、県内各支部を中心にたくさんの同窓生の出席がありました。

議事は、森田昭様（Ｓ52年卒・農経）に議長をお願いして審議を進めていただき、いずれの議案も賛成多数で承認されました。

〈講演会は熱心に聴講〉

総会後は、佐賀大学農学部教授で前農学部長の渡邉啓一先生に「地域と共に世界に向けて発展する佐賀大学農学部」と題して講演をいただきました。大学については、教育、研究機関であるとともに、地域貢献を果たすことも重要であること。農学部・大学院農学研究科の改組については、現在の３学科が１学科（生物資源科学科）に統合され、その中に①生物科学コース、②食資源環境科学コース、③生命機能科学コースと、新たに④国際・地域マネジメントコースが設けられる計画であること。大学院（修士課程）については、現在の農学研究科生物資源科学専攻が、創成科学研究科の①生物資源科学専攻と、医学系と結びついた②先進健康科学専攻とに改組される計画であることを紹介され、こうした改組により、地域農業資源の活用、農業基盤の構築や新技術開発に貢献し、農学を基盤とした新産業育成と地域振興を先導する人材などを養成していくことを熱心に講演いただき、予定していた時間を超過して、質疑時間を十分に取れないほどでした。

地域と世界をキーワードに講演

学生の頃より熱心な参加者

〈今年も歌声を披露〉

講演会の後は、佐賀大学混声合唱団コーロ・カンフォーラの合唱により、60周年記念事業で作成した農学部の歌「学部歌」と「学生歌」の２曲と、持ち歌である「学生時代」を披露していただきました。指揮は、農学部２年生の山口達郎さんが行いました。

日頃の練習の成果を発揮

〈「楠の葉の」の大合唱も〉

その後は、会場を生協の「かささぎホール」に移して、懇親会を行いました。来賓として、佐賀大学農学部長有馬進様、全学同窓会金丸安隆会長様、各

水田理事による巻頭言

学部同窓会長様ほか多数の大学関係の方にご参加いただきました。閉会前に、水田和彦理事による「巻頭言」の披露と、佐賀大学学生歌「楠の葉の」を参加者全員で肩を組んでの大合唱となりました。

そして、最後は、平成28年度同窓会長賞（学生表彰）を受賞された八谷英佑さん（H29年卒・農学研究科生物資源科学専攻）の力強い万歳三唱でお開きになり、在校生・教職員・卒業生の交流の場としての楽しいイベントにすることができました。

肩を組んでの「楠の葉の」の合唱

総会の１日は、私たち同窓会の１年の活動方針などを決める重要な場であるだけでなく、同窓生をはじめとする関係の方々の絆を深める場でもあります。これまで総会に参加されていない同窓生の皆様も、来年はぜひ総会への出席をよろしくお願いいたします。　　田中俊之（Ｓ59年卒・農経）

■役員の選任

役員の一部を改選しました。

光富勝副会長、有馬進、白武義治、中尾淳、岩吉豊治の理事４氏、青木久生監事、荒木清史教職員支部長が退任され、次の方々が後任を務められます。

担当役職	氏　名	卒年・学科（専攻）	所属支部
副　会　長	吉　賀　豊　司	Ｈ２・園芸（応動）	佐　賀　大　学
理　　事	徳　本　家　康	H14・生生（水利）	佐　賀　大　学
理　　事	龍　田　勝　輔	H15・応生（害虫）	佐　賀　大　学
理　　事	辻　　保	Ｈ６・生生（基盤）	佐賀県庁支部
理　　事	江　口　秀　孝	Ｈ２・農化（食管）	佐賀県教職員支部
監　　事	大　坪　正　幸	S59・農学（農経）	佐賀県教職員支部
教職員支部長	青　木　久　生	S58・園芸（蔬菜）	佐賀県教職員支部

会費納入のお願い

日頃より、同窓会活動に多大なご理解を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

同窓会会報「ありあけ」の発行、総会・懇親会の開催、大学との意見交換会、支部助成活動、在学生への就職支援など、多岐に亘る活動をおこなっています。これらの事業は同窓会費で賄われており、同窓生の皆様には大変ご協力をいただいておりますが、近年は年会費納入率が極めて低く、同窓会運営にも支障を来しています。

出費多端のところ大変恐縮ではございますが、同窓会の趣旨をご理解の上、納入いただきますようよろしくお願い申し上げます。

なお、既に納入をして頂いている方につきましては誠に申し訳なくご容赦の程お願い申し上げます。

平成28年度事業報告および収支決算

（H28.4.1 ～ H29.3.31）

■事業報告

次の事業を執行し、同窓会の円滑な運営、支部活動の充実に努めました。

(1)　大学との意見交換会を開催し、相互に連携した取組みを行った。

(2)　在学生支援として、在学生・教職員・卒業生の交流会を開催した。

(3)　大学主催の就職ガイダンスの講師として会員を派遣した。

(4)　会報「ありあけ」18、19号の発行・配布。

(5)　農業版MOT講座への支援。

(6)　支部への支援、全学同窓会支部との連携。

(7)　同窓会員名簿のデータ管理、会員への閲覧。

■収支決算

(1)　一般会計

【収入の部】　単位：円

科　目	28年度決算
前年度繰越金	703,054
会　費	3,493,000
学生（新入生）	3,146,000
一般会員	347,000
雑　収　入	282,037
特別会計戻入	500,000
計	4,978,091

【支出の部】　単位：円

科　目	28年度決算
事　務　費	917,544
会　議　費	617,416
事　業　費	1,069,870
組織強化費	349,936
全学同窓会負担金	1,573,000
特別会計への繰出金	326,500
新入生入会金	71,500
会費平準化準備金	255,000
予　備　費	90,675
計	4,944,941

※差引 33,150円は次年度へ繰越

(2)　特別会計

【収入の部】　単位：円

科　目	28年度決算
前年度繰越金	13,248,461
一　般　分　a	6,574,754
会費平準化準備金　b	6,673,707
入　会　金　c	71,500
会費平準化準備金　d	255,000
雑　収　入　e	1,565
計（a＋b＋c＋d＋e）	13,576,526
一般分（a＋c＋e①）	6,646,404
会費平準化準備金（b＋d＋e②）	6,930,122

※e＝e①＋e②

【支出の部】　単位：円

科　目	28年度決算
繰出金（一般会計へ）	500,000

※差引 13,076,526円は次年度へ繰越

平成29年度事業計画および収支予算

（H29.4.1 ～ H30.3.31）

■事業計画

(1)　会員に対し同窓会をより身近なものとしていくため、支部の体制・活動をより充実するとともに、会報を発行するなど各種情報の提供を行う。

(2)　更なる組織の強化・活性化を図るために、支部未加入者を対象として既存支部への加入促進や、地域組織との連携を図る。

(3)　農学部と同窓会との意見交換会を開催するなど、相互に連携した取組を行う。

(4)　学生に対する就職ガイダンスなどの支援を行うとともに、卒業生との交流促進に取り組む。

(5)　農業技術経営管理士（農業版MOT）養成の取組に連携して協力支援を行う。

■収支予算

28年度決算と比べて厳しい予算組みとなりましたが、一般会員からの会費収入を高めて、財源確保に努めていかなければなりません。

会員の皆様のご支援をお願いします。

(1)　一般会計

【収入の部】　単位：円

科　目	29年度予算
前年度繰越金	33,150
会　費	3,630,000
学生（新入生）	3,190,000
一般会員	440,000
雑　収　入	199,850
特別会計戻入	500,000
計	4,363,000

【支出の部】　単位：円

科　目	29年度予算
事　務　費	760,000
会　議　費	470,000
事　業　費	810,000
組織強化費	300,000
全学同窓会負担金	1,595,000
特別会計への繰出金	372,500
学生入会金	72,500
会費平準化準備金	300,000
予　備　費	55,500
計	4,363,000

(2)　特別会計

【収入の部】　単位：円

科　目	29年度予算
前年度繰越金	13,076,526
一　般　分　a	6,646,404
会費平準化準備金　b	6,430,122
入　会　金　c	72,500
会費平準化準備金　d	300,000
雑　収　入　e	1,474
計（a＋b＋c＋d＋e）	13,450,500
一般分（a＋c＋e①）	6,719,000
会費平準化準備金（b＋d＋e②）	6,731,500

※e＝e①＋e②

【支出の部】　単位：円

科　目	29年度予算
繰出金（一般会計へ）	500,000

同窓会長賞

久冨氏へ農学部同窓会長賞を贈呈

第32回同窓会通常総会に先立ち、川副会長より同窓会活動に多大なご尽力をいただいた久冨泰弘様（Ｓ33年卒・育種）に同窓会長賞の贈呈を行いました。久冨様は、同窓会長を２期４年務められ、佐賀大学の創立50周年記念事業に際し、同窓会の拠点である「菱の実会館」の建設や農学部記念誌の編纂にご尽力いただきました。また、支部活動において、教職員組織の拡大に力を注いでいただいており、佐賀県支部からの推薦のもと、そのご功績を讃え、同窓会会長賞を贈呈されました。

久冨様からの受賞挨拶では、同窓会活動に対する熱い思いを語っていただきました。

川副会長より同窓会長賞を贈呈

同窓会への思い入れを語られる久冨氏

同窓会長賞　受賞者の手記

佐賀大学同窓会長賞
農学研究科
生物資源科学専攻
苗　代　麻　里

この度は、佐賀大学同窓会長賞という名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。

私の所属していた研究室では、わが国で栽培されているカンキツ類の端境期に収穫・流通が可能な晩熟系カンキツ‘さがんルビー’の開発が行われていました。‘さがんルビー’は、耐寒性が強く国内栽培が可能なグレープフルーツです。果肉は薄い赤みを帯びており、果実は貯蔵性に優れているといった特徴を持っています。‘さがんルビー’を用いた加工品は果汁のみを使用しているため、大量の果皮が残っていました。その果皮を有効活用した加工品の作成に取り組むため、高大連携事業として私は唐津東高校の科学部の生徒に研究指導を行ってきました。果皮から抽出したオイルをガスクロマトグラフィー-質量分析計を用いて成分分析を行った結果から、LimoneneやNerolidolのような多くの成分を検出することができました。この検出することができた成分を有効活用することを考えてリップクリームの開発に取り組みました。私が研究発表会における各種指導をさせて頂いた生徒は、数多くの賞を受賞されました。素晴らしい賞を受賞することへ少しでも貢献できたことは、私にとって貴重な体験だったと思っております。

私は、‘さがんルビー’の他にもホウレンソウを用いて植物体再分化系の構築に関わる研究も致しました。多方面における研究に関わらせて頂いたことや、多くの方と関わる機会を与えて頂いたことにより、自分自身が成長することのできた学生生活だったと感じております。これも研究を通して携わらせて頂いた大学や企業の方々をはじめ、研究室の仲間、友人、そしてこれまで勉学に励まさせてくれた家族のおかげです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私は、平成29年４月から食品会社に就職致しました。高校生の頃から食品に携わる仕事をしたいと考えていた私は、佐賀大学の農学部に入学し農業や食品に携わる多くの事を学びました。大学に在籍した６年間で培ったものを社会に還元することができるよう、精進していきたいと思います。

農学部同窓会長賞

農学研究科
生物資源科学専攻
佐　藤　友　哉

この度は、農学部同窓会長賞という名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。

私は、「麹グリコシルセラミドと腸内細菌の相互作用の解析」というテーマで研究を進めて参りました。和食の基盤である麹は、味噌、醤油、日本酒や焼酎、黒酢といった日本独自の伝統的な発酵食品の製造に広く用いられるため、日本人は長年に渡って麹を摂取してきた経験があります。日本人の平均寿命は医療水準が同等である他の先進国と比べても高く、その一つの要因として和食があることが考えられていますが、和食がどのように日本人の健康に寄与しているのか、その具体的なメカニズムはこれまで充分に明らかにされていませんでした。一方、腸内細菌はヒトの健康と密接に関係していることが報告されており、２型糖尿病や大腸がんといった様々な疾病の発症に伴い、腸内細菌叢構成に変化が生じている事が明らかにされています。そこで、麹がもつグリコシルセラミドという脂質成分が腸内細菌を通じてヒトの健康に寄与しているのではないかという仮説を基に、グリコシルセラミドと腸内細菌との相互作用を調べました。その結果、グリコシルセラミドが腸内細菌叢の構成に影響を与えること、健康機能性のある腸内細菌の増殖を促すこと、特定の菌種に殺菌作用があるコール酸への耐性を賦与する可能性を見出しました。本研究結果は、日本人が高い平均寿命をもつメカニズムの解明に繋がると期待されます。

本研究が日本農芸化学会でトピックス賞を受賞でき、佐賀大学農学部同窓会長賞を受賞できましたことは、４年間真摯かつ丁寧にご指導下さいました生物環境科学科の北垣浩志教授をはじめ、研究室の先輩や仲間、友人、家族など周りの方々の暖かい支えがあったからこそです。自分自身を大きく成長させた貴重な時間を皆さんと過ごせましたことを、心より感謝しております。本当にありがとうございました。

最後になりますが、私は平成29年４月からフジッコ株式会社に就職致しました。佐賀大学での学生生活で培ってきた経験や知識を活かして社会に還元できるように努めていきたいと思っております。

農学部同窓会長賞

農学研究科　生物資源科学専攻
生物環境保全学コース
八　谷　英　佑

この度は、農学部同窓会長賞という名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。

私は修士論文で、セメントの代替材料として近年注目されているジオポリマーについて、そのフィラー材料および養生方法の二面から強度特性を明らかにしました。ジオポリマーとは、活性フィラーとアルカリシリカ溶液を混合して固化させたもので、次世代コンクリートとも呼ばれています。ジオポリマーのフィラー材料に、石炭火力発電所から排出されたフライアッシュ（石炭灰）を使用することで、セメントと比較して二酸化炭素の排出を約80％削減でき、加えて産業廃棄物の有効利用が可能となります。固化のメカニズムは、ポリマー反応（脱水縮重合）によるものと考えられており、セメントの水和反応とは異なります。そして、その強度はセメントに比べるとまだ低く、検討の余地があります。本研究では、フィラー材料に異なる排出ロットのフライアッシュを使用し、含有成分の違い（特に塩基度）がジオポリマーの強度に強く影響することを明らかにしました。またジオポリマーの養生方法については、初期養生後、水気が少ない条件で養生することで高い強度を得ることができました。この研究成果「排出ロットの異なるJISフライアッシュを使用したジオポリマー硬化体の圧縮強度の比較検討」は、農業農村工学会論文集に掲載させていただいております。今後のジオポリマーの研究に役立つことが期待されます。

佐賀大学農学部同窓会長賞を受賞できましたことは、私一人の力によるものではありません。熱心かつ丁寧にご指導頂いた近藤文義先生をはじめ、研究室の先輩、友人、後輩の協力、そしてこれまで支えてくれた両親がいてくれたからです。本当にありがとうございました。現在私は佐賀市役所に勤務しております。職員として、市民の皆様に最大のサービスを提供するとともに、より良い街づくりのために日々業務に励んでおります。社会人として、社会に、そしてお世話になった方々に恩返しができるように、精進していきたいと思っております。

女性研究者賞

平成29年３月17日～20日に京都府京都市で開催された日本農芸化学会平成29年度大会において、山形大学農学部食品・応用生命科学コース食品栄養化学分野の井上奈穂（H14年卒・栄養）准教授が平成29年度農芸化学女性研究者賞を受賞されました。今回、17日にウェスティン都ホテル京都で受賞式が、18日に京都女子大学で受賞講演が行われました。

日本農芸化学会は、農芸化学分野の基礎及び応用研究の進歩を図り、それを通じて科学、技術、文化の発展に寄与することにより人類の福祉の向上に資することを目的として、大正13年に設立された学術団体で、バイオサイエンス・バイオテクノロジーを中心とする研究者、技術者、学生、団体など、約10,000名、400団体によって構成されています。

農芸化学分野において、研究および産業の発展を図るために、女性研究者の人材育成と各分野での活躍が必要と考えられています。日本農芸化学会においても、今年度より、大学、公的研究機関、企業等で研究・開発に従事し優れた成果を挙げている女性研究者を顕彰することで“支援”し“可視化”する目的で、３つの賞が創設されました。

農芸化学女性研究者賞は、農芸化学分野で顕著な研究成果をあげた女性研究者を顕彰する賞であり、井上奈穂氏は第一回目の受賞者となられました。

今回の女性研究者賞は「植物性機能性成分による病態発症改善機能に関する研究」に対して与えられたもので、受賞講演では、食経験が豊富で安全性が高いと考えられる「植物性食品」に着目し、それらに含まれる「植物性機能性成分」による肥満誘発性病態の予防・改善作用に関する研究結果について、病態モデル動物および培養細胞での評価を中心に話されました。

光富　勝（Ｓ51年卒・食製）

職場では

学生時代に学んだことを活かして　株式会社 森光商店

鳥栖市にある株式会社森光商店は、明治10年の創業から140年に渡り卸売業を営んでいます。会社は３つの事業部から成り、「米穀事業部」「食料事業部」「ペットライフ事業部」で構成されています。米穀事業部は、米の精米・卸売（業務用・家庭用）、食料事業部は、豆・雑穀・小麦粉などの穀物・穀物加工品の選別・精白・卸売、ペットライフ事業部は各ペットメーカーから仕入れた商品の卸売を行っています。３事業部で共通していることは、それぞれの事業部で、自社開発商品を作り販売していることです。米穀は少量米（２kg以下）のスタンドパック、食料はオリジナル雑穀ブレンド、ペットライフはオリジナルフードが代表的なもので、日々お客様の立場に立った商品開発を行っています。私が働いているのは食料事業部の中でも食品課という自社開発商品の開発から販売まで行っている部署です。主な仕事としては開発と営業の２つに分かれ、開発の仕事では企画開発の上司の補佐として商品の試作や原料の手配、会議用のサンプルの手配等を行っています。営業の仕事では、週に１度の開発会議・得意先への商談・既存店の店舗巡回・新規納入店舗の状況確認・販促物作成・提案資料の作成を行っています。仕事を行う上で気を付けていることは相手の立場に立った仕事ができているかどうかです。開発の仕事を行っているときには自分の行った仕事で上司が円滑に業務を進めることができるかどうかを心がけて仕事を行っています。営業の仕事を行っているときにはバイヤーが商品を採用して売れると思ってもらえるような提案をすることを心がけています。今の仕事をしていてよかったことは、食に関する様々な経験をすることができるところです。弊社工場での製造現場や委託工場での製造の様子を見るこ

とができたり、製品のデザインや校正に関する知識を得ることができたり、実際に様々な食品を食べ比べることができたりと幅広い経験をすることができます。大学時代に学んだ大豆の知識を活かすことができるところもまた食に関わる仕事をしていてよかったと感じています。今後も今まで得た知識と経験を活かして仕事に取り組んでいきたいと思います。

浅田真央（H22年卒・育種）

支部だより

佐賀県教職員支部　佐賀県教職員支部総会

昨年12月３日（土）に観光ホテル朝風（佐賀市愛敬町）にて教職員支部総会を開催し会員22名の出席がありました。来賓として農学部同窓会の川副操会長、全学同窓会の金丸安隆会長とＯＢの水田和彦様にご出席をいただきました。荒木清史支部長の挨拶では、農業系高校のさらなる発展を目指しての取り組みと農学部同窓会の会費納入のお願い（特に終身会費納入の促進）がありました。川副会長からは、農学部と同窓会との意見交換会で、荒木支部長から農学部に対して県内農業高校生枠設定の要望があったこと、農学部同窓会の活動状況や会費納入のお願いがありました。金丸会長からは、全学同窓会の組織強化に係る取り組みを中心に話をしていただきました。議事では、事業報告、会計報告並びに監査報告、また、役員改選案も含めてすべて問題なく承認をされました。

総会に引き続き開催した懇親会も、終始和やかな雰囲気の中で楽しい交流の場となり、最後は、水田様の巻頭言で締めていただきました。来年は、さらに多くの会員の皆様のご参加を祈念いたします。

なお、新役員は次のとおりです。　支部長：青木久生（Ｓ58）、副支部長：大坪正幸（Ｓ59）、外戸口良文（Ｓ61）、幹事長：江島博文（Ｓ62）、幹事：松尾信寿（Ｓ63）、岩吉豊治（Ｈ２）、会計：前田菜美子（H23）、監査：松元公司（H10）、小池由恵（H13）

江島博文（Ｓ62年卒・食管）

佐賀県庁支部　先輩を送る会

平成29年３月末日で佐賀県庁を退職される先輩方をお招きして、３月15日にグランデはがくれ（佐賀市天神２丁目）において「先輩を送る会」を開催しました。

平成28年度末に退職された先輩は、田代暢哉先輩（上場営農センター）、田久保義和先輩（西松浦農業改良普及センター）、山本勇先輩（農業試験研究センター）、高尾雅晴先輩（東部農林事務所）の４名でした。

このうち出席いただいたのは田代先輩と田久保先輩の２名で、会員は33名の出席がありました。

高田俊行監事の先導による両先輩の入場に始まり、南里敏彦副支部長の開会、溝口宜彦支部長の挨拶、記念品と花束の贈呈、先輩を囲んでの記念撮影のあと、先輩それぞれから挨拶をいただき、船津哲也さんの乾杯で歓談に移りました。会員の皆さんは両先輩と昔話に花を咲かせ、大いに盛り上がりました。その後、全員で旧学生歌「楠の葉の」を合唱し、最

後は恒例となっている出席した会員全員で作ったアーチの中を両先輩が通って退場していかれました。去っていかれるその姿は名残惜しいものがありました。

「先輩を送る会」が滞りなく終わることができて、幹事一同ホッとしているところです。

次年度のこの会には、今回残念ながら参加できなかった会員も含めて多数の出席をお願いしたいと思います。　　松尾　定（S61年卒・熱作）

佐賀県支部　佐賀県支部総会

佐賀県支部では、第10回総会を平成29年５月12日に「グランデはがくれ」において、会員30名が参加し開催しました。

総会の開会にあたり、澤野兵五支部長（S44年卒・育種）が、同窓会活動を通じ会員相互の連携と親睦を深めることを力説されるとともに、久冨康弘氏（S33年卒・育種）が農学部同窓会表彰者に決定されたことの報告がありました。

総会には来賓として、農学部同窓会長の川副操氏（S44年卒・土改）と、本年４月に農学部長に就任された有馬進氏（S52年卒・農経）が出席されました。川副会長は、活動内容の報告とともに、「同窓会の円滑な運営にとって会費納入が不可欠であること」を強調されました。また、有馬農学部長からは、「同窓会員で農学部長になったのは、髙木胖先生（S36年卒・育種）に次いで二人目であることや、平成30年度に農学部が１学科・４コースに改変されることなどもあり、精一杯頑張っていきたい」旨の決意表明がなされました。

総会では、平成28年度の決算と平成29年度の事業計画・予算が承認されました。また、新入会員として、田代暢哉氏（S54年卒・植病）が加わり、会員数は103名となりました。

懇親会では、先輩・後輩が車座になり、約40年～60年のタイムスリップをしたかのように昔話の花を咲かせていました。

そして、「不知火寮」の申し子でもある水田和彦氏（S51年卒・機械）の巻頭言の下、佐賀大学学生歌「楠の葉の」を参加者全員で熱唱し、お開きとなりました。　　森田　昭（S52年卒・農経）

編集後記

農水省の資料では、我が国の昭和59年の農業総算出額（売上高）は11.7兆円、その30年後の平成26年では約４分の１の2.8兆円となっています。また、平成26年の農業就業人口は226.6万人で、新規就農者の数は57,700人となっています。現在の日本の農業は、福岡市と大分市の人口で支えられている状況で、就農者の平均年齢は年々上昇していっています。我々団塊の世代が当時よく聞いた言葉で「少年よ、大志を抱け」（Boys, be ambitious）があります。これは札幌農学校で初代教頭を務めたクラーク博士の言葉で、英語の授業でも習いました。札幌農学校（現北海道大学）は、明治９年に設立されており、当時は先ず食糧の増産が必要であったことから、農業分野の人材育成のために創られたものです。時代は変わり、日本は第１次産業から第２次産業、第３次産業へ、そして第４次産業といわれる時代に入ろうとしています。このような状況下ですが、新規就農者は毎年約５万人位います。彼らが抱える課題として、農業は、「所得が少ない」、「技術の未熟さ」、「設備投資資金の不足」を挙げています。日本の農業の現状を考えた場合に、クラーク博士の言葉のように若者を奮い立たせる新たな価値を見出す産業分野に農業が成長してほしいと願っています。理系学部の改組により、農学部は平成30年度から、現在の３学科が生物資源学科のみの１学科となりますが、農業分野の知の拠点として更に発展していくことを期待しています。

編集担当：大久保　惇（S47年卒・土肥）

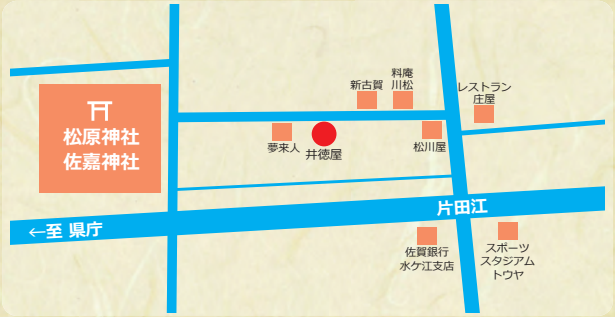
協賛広告

この度の同窓会報発刊に際しまして、皆様より協賛広告をお寄せいただき誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げますとともに、協賛各社の今後のご発展をお祈り申し上げます。

こだわり食品の店 井徳屋

佐賀市松原3丁目2-16 〈TEL〉0952-23-4373

佐賀の豊かな大地で育った農薬不使用栽培の野菜やお米、嬉野茶、無添加ハム、自家製酵母のパンなど美味しい地場産の食品を取り揃えております。



ホームページからも
ご注文いただけます。
http://www.itokuya.com

MORIMITSU

Grain & Pet Care Communication

株式会社 森光商店

〒841-8611　佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7
PHONE.0942-85-1125㈹　FAX.0942-83-8868

ホームページ http://www.morimitsu.co.jp

地域と共に歩む。

JAグループ佐賀は「食」と「農」を基軸とした協同組合として、
地域の核となり、地域を支えていきます。

皆さまへ安全・安心な県産農畜産物をお届けし、地域の活性化に寄与するために、
地域のみなさまと共に歩んでまいります。

耕そう、大地と地域のみらい。
JAグループ佐賀

JAグループ　検索